えに基づくならば国家、政治、経済、権力関係などは所詮、 仏教とは何か、と問われたならば「煩悩にとらわれないための教え」、それがただ唯一の答えである。その答 人間世界の煩悩が生み出した蜻蛉のような概念でし

かない。

という仏教が説くところの煩悩にとらわれた自分を描いた私小説でしかない。 軋轢を生み出しながらも、日本に仏教が根付いていった、という考えに固執した果ての答えが日本仏教史の研究 具体相を扱っているのではなく、仏教の中にも世俗的な要素があるという視点、その要素が世俗社会との癒着や の現在の実情ではないだろうか。しかしその答えは、研究者自身が政治や経済を述べることこそが学問なのだ、 に着地点を見出しているのが現状といわざるを得ない。仏教がもたらした現実社会を生きる人間と信仰や思想の がどのように利用されたのか、もしくは反対に、世俗世界を仏教がどのように利用したのかを言及することのみ しかし、仏教の歴史を繙いた、いわゆる仏教史研究の多くが扱う時代の国家、政治、経済、権力関係に、 仏教

『果たしてそうなのか」という疑いや、現代とは大きく異なったものではないのかという視点は、常にもたなけ 我々は一体いつから仏教を、国家、政治、経済、権力関係等を論じるための道具に変えてしまったのだろう。 たとえ、過去に国家、政治、経済、権力のようなものがあったとしても、一見そのように見えたとしても

ればならない。

i

会、しょっちゅう借金の帳消しをやっている社会、専制君主のもとでの自由な社会、などなどの状況のなか るようでいて無力化された社会、市場はあるが資本主義はない社会、商業は活発だが搾取のほとんどない社 ない関係性をむすんできたし、いまの想像力では考えられもしない――たとえば国家のない社会、 人類は、いまのわたしたちからは、ときに途方もなくみえる習慣や実践をもってきた。あるいは想像もよら 悩んだり苦しんだり、ときに地獄をみたり、楽園を味わったりしながら、である。日本においてもそれ

ある。私たちは国家がいかなるものか、社会はどのようなあり方をしているのか、経済はどのような動きをして ここに書かれていることは、私たちが当たり前だと考えている思考や社会のあり方自体を疑え、ということで

0年』以文社、二〇一六年

(デヴィッド・グレーバー「世界を共に想像し直すために――訳者あとがきにかえて」、『負債論』

-貨幣と暴力の500

いまもむかしも例外ではない。

は、 きたのか、権力関係はどうだったのか、を歴史の中に見出そうとする。しかし、私たちが歴史とみなしているの いうことは、もはや歴史研究をする上では一般的に考えられるようになった。 しかし国家、政治、経済、権力といった言葉や概念自体が近代になって作り出されたにもかかわらず、その作 再構成された歴史叙述である。様々な出来事が網の目のようにつながり錯綜し結び合っているものであると

に陥ったまま、仏教の歴史は読み解かれている。 り出された過程を忘却し、あたかも過去から現代まで外型だけ形を変えながらも存続しているというような錯覚 つまり仏教の歴史であっても、 必ず国家や経済を論じなければならないという煩悩から脱しきれていない。

れは、仏教の歴史を論じる出発点がそもそも異なっているのではないのだろうか、という問題を生じさせる。

を排除する教えである。その教えを説く仏教の歴史を学ぶ意義は、「私」という存在自体が煩悩そのものである 般に我々は仏教というのは、「私が悟る」と考えるが、それは大きな間違いである。仏教は自己中心的思考 煩悩の中にあっては自己中心の思考から解放されることはないことを知ることにある。

ここで必要となるのが、仏=「悟り」が「私」を変えていくという新たな視点である。

切衆生を導いたととらえられるだろう。しかし事実はその反対である。なぜならば「私」は煩悩というあり方を ることが可能になる。 しているため自力で誓願を立てることなどできない。ゆえに「仏のはたらき」が「私」に与えられ、誓願を立て 教学書、仏教説話、願文などに記された誓願は、一見すると「私」が誓いを立てて利他行を実践し、一

経典、教学書、説話、願文には、「他者を救済したい」という誓いを「仏」により「与えられた」人々によっ

て世界や歴史が作られていくことが記されている。

えられたもの」をどのように使うかということだけだ。 有していると認識しているものも、実は「与えられたもの」である。ここで人間にできることはただ一つ、「与 は生と死が平等に与えられているため、権力や財産や土地や金銭を永遠に所有することなど不可能だからだ。所 うとも、人間を支配したり変えたりする力をもつことはできないという真実が明らかになる。なぜなら、 「与えられた」という感覚や考えをもった人々の中では、煩悩をもつ人間はいかなる権力をもった人物であろ 人間に

いったのだろうか。その答えを見つけるために、小著では、「仏」に力を「与えられた」と感じた人々に光を当 では過去の人々は、どのように、「与えられたもの」すなわち力や財産を、自分以外の他者のため

言 緒 標題の「賢者」とは、「仏」に「与えられた」力によって理想的世界を実現させるために奔走した人々のこと

たとえば文人貴族たちは、真実の言葉で綴られた文章を作成することで理想的社会の構築を目指した。

的には、有能で清廉潔白な少数の官僚によって政治を善政に導くことである。

である。桓武天皇(七三七~八〇六)の時代、彼が即位すると大胆な政治および宗教文化の改革が始まった。

言葉とは、一つは儒教的な政治的理想を語る言葉であり、もう一つは人間とはいかに生きるべきかを追求した釈

迦の言葉である。それは聖なる言葉、清浄な言葉であることを意味する。人間が作り出した言葉であっては意味 を成さない。聖人もしくは覚者の言葉でならなくてはならない。なぜならば欲望にとらわれた人間の言葉は 「狂言綺語」にあたるからだ。では真実の言葉はどこにあるのかと問えば、仏教経典や教理書の中にのみ示され

ている。仏が説いた言葉が悟りであり、嘘偽りのない真実である。

方をしていたのだろうか。小著では、「賢者」としての新たな菅原道真像を描いていくことを目標としている。 の実現、実現された社会の姿を詩に描き出していったのだが、その描かれた世界は一体どのように理想的なあり それら「賢者」の言葉を用いたのが菅原道真(八四五~九〇三)である。道真は自ら「賢者」として理想的社会

貴族と天台宗の学僧から構成された「賢者」の集団である。彼らは勧学会を結成することによって、新たな仏教 的社会の構築に力を注いでいくのだが、それは道真が描き出した世界を踏襲しながらも、 また、道真を「文道の祖」=仏として奉った念仏結社勧学会が康保元年(九六四)に結成される。勧学会は文人 極楽浄土往生と他者救

もちろん「賢者」は文人貴族ばかりではない。仏教によって統治する王・金輪聖王とみなされた天皇も、 積極的に「賢者」としての役割を果たしていく。また上皇は、天皇を退位することで活動範囲が広がると

済を中心とした理想的社会の構築を目指していく。

阿弥陀仏の四十八願に代表されるように、仏になって他者を救済するために仏に立てる誓いが誓願であり、そ

層の仏教的善業を積むことが可能となった。その際に必要となるのが誓願である

れを文章化したテクストが願文である。願文に目を通すと、自らの身分や役割に与えられた真意は何かを模索し、

「我々は仏のために何ができるのか」と問い続けた姿が浮かび上がってくる。

ため、道長はこの世に浄土が現れることを望んだ。それが法成寺であった。 観想念仏はとうてい個人的なものではすまなかった。観想念仏自体が困難な修行である。たとえ源信 していればいいだけである。しかし藤原道長もその子頼通(九九二~一〇七四)も大寺院を作り上げた。彼らには、 治の平等院は、藤原道長の権力の象徴ではない。もし浄土信仰が個人的なものならば、西に向かって観想念仏を 王を補佐する立場として、自らどのような仏教的善行ができるかを常に求め続け、また求められた。法成寺や宇 一○一七)の『往生要集』や『観無量寿経』に記されていたとしても、煩悩が心に生じ修行の邪魔をする。その 藤原道長 (九六六~一〇二八)を代表とする摂関家といった有力貴族たちも同様である。 彼らは、天皇=金輪聖

歴史物語『栄花物語』を読むと、法成寺落慶法要には多くの人々が参集している。法成寺建立は道長が 「 賢

に極楽浄土は目の前にあるのだという理解を芽生えさせた。摂関家は「賢者」の家であり続けなければ成立しな 者」として成さねばならない事業であった。具体的な浄土の姿を娑婆世界に現出させること、それは多くの人々 い家なのである

したいと願っているのだろうか」と問い続けた人々のことを指す。 初めて阿弥陀仏の慈悲や本願による救いというものに気づかされた人々を意味する。もしくは「仏は我々に何を 方「愚者」とは、仏の智慧にはあまりに劣っている、自力では悟りにいたることができないと自覚した人々、

貴族社会とは異なる身分階級の人々、すなわち貴族社会とつながりが無い僧侶たち、具体的には法然の周辺に

言 いた鎌倉時代の僧侶を中心とした人々である。 彼らが共通して使った言葉は「愚」であり、決して「賢」という言葉は使わなかった。仏教でいう「賢者」と

あの智慧第一といわれた法然でさえ、自らを「愚癡の法然房」と称するしかなかった。 つまり法然は、私たちが住むこの娑婆世界という、すべての生き物たちが欲望にまかせて相争う世界には

愚者」とは、通常の意味での、対立する「賢」と「愚」ではない。阿弥陀仏の誓願というものに出遇ったとき、

「賢者」など一人も存在しない、ということに気がついた。したがって、「賢者」は全く意味をもたない、この世

かをしたとしても、それは自らの煩悩が引き起こした行動であると理解していた。 念仏者へと継承された。彼らもまた「愚者」であるが、彼らは自分の力では何もすることができない。たとえ何 に存在しない幻想にすぎないことになる。やがて法然の「愚者」であるという考えは、弟子たちとともに多くの

とを仏によって「与えられた」という気づきである。 その理解には、彼らのある共通した考えが流れている。それは、「私」は「愚者」というあり方をしているこ

『愚者』であることを気づかされたとき、「仏は私たちに何をしたいと考えておられるのか」という問題へと足

は聞き取れないと感じていた。なぜならば「私」は煩悩を滅し尽くすことができないため、仏の言葉を自ら選ぶ を踏み込んでいく。 - 愚者」は「賢者」と異なり、仏は我々に何を語りかけているのかを考えながらも、しかし仏の言葉は容易に

ある「私」に与えて下さったのだと考えた。つまり「選択本願念仏」である。もちろん、「愚者」たちが自ら気 ことなど不可能である。それゆえに、法然は念仏往生の教えを多くの経典の中から選び出して、仏が「愚者」で

- 愚者」は、仏によってしか自分は救われない存在であることに「気づかされ」、仏によるはたらきこそが唯

づいたわけではない。仏から「与えられた」力が、「私は一人の愚者なのだ」と気づかせたのだ。

の救いとなる。

方をしていけばよいのかという問題の答えが、「与えられ」「語りかけて」くれることを祈りつつ、仏と人間との では過去の「賢者」と「愚者」が描いた世界の跡をたどりながら、現代に生きる我々と世界はどのようなあり

関係について考えていくことにしよう。

それが第Ⅰ部のテーマである。

なものであり、とりわけ文人貴族たちがどのような文章を作成していったのかを、見ていかなければならない。 れているが、その意味を正しく理解するためには、それ以前の古代の「賢者」による誓願というものがどのよう なお、本書のテーマは日本の浄土思想であり、そこでは、僧侶が「愚者」としての自覚をもったことが吐露さ

緒 言

第Ⅰ部 賢者の王国

第 三 章	第二節	第一節	第二章	第三節	第二節	第一節	第一章
院政――天皇と文人貴族たち	勧学会結衆たちの仏教観 46	慶滋保胤の詩文にみる仏教観 34	「狂言綺語は讃仏乗の因とす」――勧学会とは何だったのか3	垂迹した天皇――帰京後の道真 22	地域社会と仏事の主宰――讃岐守時代 15	悲嘆の吐露から超克へ――讃岐守赴任以前 3	菅原道真の仏教信仰3

第一節 第二節 第三節

仏界の荘厳

-法勝寺は何のために建てられたのか

75

仏界と都市

86

鳥羽上皇の願文にみる浄土信仰

九品往生と唯心浄土

101

第Ⅱ部 愚者の浄土

第二節	第一節	第三章	第二節	第一節	第二章	第二節	第一節	第一章
嵯峨念仏房の念仏往生観 215	殺生と念仏――『法然上人行状絵図』にみる蓮生の念仏往生 196	法然の継承者たち	法然の語り――念仏往生の願は男女をきらはず 772	愚癡の法然――念仏往生観 163	法然の語り――愚かであること(二)	愚かなる自己――貞慶『愚迷発心集』 48	釈迦と舎利――隠されているものの宗教史 17	貞慶の『舎利講式』と『愚迷発心集』――愚かであること(一) ^図

初出一覧

第三節 姓名を捧ぐ—

勢観房源智「阿弥陀如来像造立願文」にみる来迎する法然

225

索引

あとがき

聖い資糧をもたらすことをおまへがたべるこのふたわんのゆきにおすへとみんなとにながのないのる。

わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ

(| 永訣の朝」宮澤家本より)

わけではない。「ふたわんのゆき」は「兜率の天の食」に変化し、すべての人々に捧げられることが祈られる。 妹トシの死は、宮澤賢治に深い悲しみをもたらした。しかし賢治は、ただトシの兄思いの妹という姿を描いた

·兜率の天」とは、弥勒菩薩の浄土・兜率天を意味する。弥勒菩薩は釈迦滅後の五十六億七千万年後に浄土よ

り娑婆世界に下生し、第二の釈迦となって衆生に法を説き救済し仏になる菩薩である。 賢治が熱心な法華信仰者であったことは知られているが、賢治には、この世界は世俗のフィルターを取り除い

では清浄は仏を意味する。「ふたわんのゆき」が トシに頼まれた「ふたわんのゆき」は白く汚れのない欲望に染められていない清らかなものの象徴である。 た仏教を通し描かれている。その地点から眺めた世界は単なる俗世ではなく、時として仏土に見えた。たとえば 「兜率の天の食」に変わるとき、この世界も 「聖い資糧」すな 仏教

わち悟りの世界へと転じる。それが「おまへとみんな」へもたらされることを、賢治は「わたくしのすべてのさ

と真の救済は何かを教示した弥勒菩薩が、この世界にいる「誰か」を救済するために転生していくと見えたので なることに賢治は気づかされた。トシの死は一人の若い女性が亡くなったというだけではなく、賢治に仏の教え 賢治にとってトシは弥勒菩薩の化身であり、トシに請われ「ふたわんのゆき」をとり、それが「聖い資糧」に

はないだろうか。

とらえることは難しいか奇妙なものに思えるだろう。だが近しい存在の死を悲しみだけで受け入れるべきだと考 えるだけならば、悲しみ自体が欲望だから、そこに「私」の救いは見当たらず仏の教えも届かない。 身近な者の死は悲嘆で受け止めるのが当たり前だと教えられた、社会に生きる私たちには、死にゆく者を仏と

されている。すなわち賢治は利他行の願意をトシ=弥勒菩薩に誓ったのだ。 い。「永訣の朝」には、その返済があらゆる生きとし生けるものの「さいはひをかけてねがふ」という報恩で表 れをトシから与えられた力と感じた。与えられた力=恩には返済の義務が生じる。それは物質であってはならな 死にゆく者はこれから仏になっていくという感覚は、仏から与えられた生きる力へと変わっていく。

その人の地位・財産・家族、すべてが「与えられたもの」である感覚の前では、絶対的な権力・地位・財産など 過去に生きた人々は、あらゆる場所に仏のはたらきを見いだし、森羅万象は人間の力を超えると知っていた。

存在しない。

限が人間にあるという考え自体を再考しなければならないだろう。 「与えられたもの」であるから、それを使って他人を支配することは不可能である。そもそも、そのような権

たとえ莫大な土地を有し、大きな権力をもっていたとしても、個人で使ってはならないという感覚が常に存し

合いが繰り広げられるだけである。

ていた時代が過去にはあったのだ。「賢者」たちは、それを知っていた。

方、「愚者」たちは、「愚に還る」こと自体が、仏から「与えられたもの」だと考えた。

所のみが「私」の居場所となっていく。 は仏の力によって生じるのであるが、疑問の答えさえ自らの力では見つけることができない。極楽浄土という場 であることに気づき、それはやがて仏はなぜ私を愚ならしめたのだろうかという疑問へと変わる。その疑問も実 自らは「愚者」であると仏に気づかされること自体が「与えられた力」であった。「与えられた力」によって愚

催する仏事のために作成され続けていった。 者」に対する社会的評価が失われたわけではない。儒教的政治思想は、朱子学や王陽明の新しい儒学が流入し、 思うな、 ていった。また平安時代以来の伝統的利他行や菩薩行を行うことを目指す願文も、江戸末期まで貴族や幕府が主 日本でも貴族だけではなく禅僧たちによって多くの研究がなされていった。それが近世の幕府を支える礎となっ それは 辿り着いたと思うな」という考えが見て取れる。もちろん法然の浄土教が興隆したからといって、「賢 「賢者」とは異なる新たな救済の形である。そこには「極楽浄土に往生したとしても何かを達成したと

であるという主張を繰り返しているばかりである。 がつく機会が与えられているにもかかわらず、私たちは自ら「賢者」でも「愚者」でもない、全く別の「個人」 こには理想的社会の構築を目指す姿はなかなか見当たらない。むしろ自己の欲望に陥っていることや、それに気 現代に生きる私たちにも、当然「与えられた力」は及んでいるはずだ。しかし、自分や周囲を見渡しても、そ

その「個人」が徒党を組むと集団となるのだが、個人の欲望の寄せ集めでしかない集団では、単に我執の奪 「個人」の前では、宗教も財産も権力も何もかもが「個人」を彩る装飾品となっている。

る愚かなあり方ではないだろうか。過去の人々が残してくれた数多くのテクストが、未来永劫にわたってそのこ それこそ、仏教で説くところの驕慢で貪欲な世界である六道を抜け出すことなどできない負の連鎖に陥ってい

とを語り続けていくのである。

という難解な史料を前に、それを読み解くことで精一杯であった一方、仏へ誓願を立て仏教社会を構築していっ た過去の人々の声が遠くからかすかに聞こえたような気がした。 い時期で、右も左もわからないなかで執筆し完成した本を手に取ったことを今でもはっきりと覚えている。願文 二〇〇八年、『平安期の願文と仏教的世界観』の出版という機会に恵まれた。その当時、大学院を出て間もな

た。どこをどう歩いていいのかわからない状態が続いていた。 くから聞こえたかすかな声は消えつつあった。いや消えていなかったはずだが、私がその声を聞こうとしなかっ それから一○年過ぎた。出版後の喜びの一方で力が抜けたように次の研究がはかどらなくなった。あのとき遠

が作成した願文といえば空海のものが有名だが、密教用語に彩られた願文が、その後他の願文に影響を与えた痕 に取り組むことになった。 跡はほぼないといってよい。僧侶が記した願文は珍しい、と……好奇心が久しぶりに心に火をつけ、 源智の願文

ある時、佛教大学の安達俊英先生より、源智の願文について発表をしてみないかという話をいただいた。

願文を読んでみると、 関係性が浮かび上がってきた。それが私と「愚者」との初めての出会いだった。その後、 するとどうだろう、文人貴族の願文のように装飾豊かな文章ではないものの、平安時代とは異なる仏と願主の 法然の関係者が残した願文が多いことに気がついた。彼らの願文から与えられたことは 徹底的に僧侶が記した

この本に書いた通りである。

らきを与えてくれる仏や菩薩が我々の周りを取り囲んでいる。私は法然以後の「愚者」の背中をすぐにでも追わ し「愚者」たちは気がついていた。「愚者」と知ることも仏に「与えられた」はたらきであることを。そのはた 仏という人間ではないものが中心となる世界。私たちはそれがどのような世界かまだわからないでいる。

なければならない。

申し上げるとともにその教えを支えに今後も前を向いて歩み進んでいきたい。京都華頂大学・華頂短期大学の山 中信子先生、小川隆昭先生からは励ましの言葉をいつもかけていただいた。また、歴史学科の市川友紀さん、大 ださった稲城正己先生、佛教大学の田中典彦先生、今堀太逸先生、仏教学部の先生方には深く感謝を申し上げる。 和実紗さんには忙しい時間を割き校正を手伝ってもらった。改めてお礼を述べたい。 二〇一二年四月、華頂短期大学歴史文化学科(現在の歴史学科)に着任した。この間、めぐり会うことができた 武庫川女子大学の遠藤純先生からは、折りにふれ研究を続けていくことの大切さを教えていただいた。お礼を 本書は多くの人に支えられ完成した。佛教大学大学院在学中より、視野を広げ考え続けるよう叱咤し続けてく

学生の学問に対するひたむきな姿勢とその笑顔にどれだけ救われただろうかと感謝の気持ちでいっぱいになる。

そして、本書の完成を直接対面して報告することができなかったことを、恩師である桜井好朗先生に深くお詫

とがき に喜んではいけないと思うのは、院生時代から植えつけられた習慣といってもいい。案の定、 ら、「君は、ある程度まではいくだろうが、さて化けることはできるかなあ……」と謎めいた言葉をかけられた。

前著を出版したとき珍しく褒めてくださったが、正直なところ違和感を覚えた。先生が褒めくださっても素直

当時、「化ける」の意味がさっぱりわからずにいた。

そして、今まで誰も考えもしなかったようなアイデアが突然、浮かんでくる。しかし影のようであり、形をつか めない時が多く、考えることを投げ出したくもなる。その時聞こえるのが「化けることはできるか」の声だ。自 今回、様々な史料に目を通したが、読み込んで考えていくと、それまで気がつかなかった意味が見えてくる。

分だけの世界を発見し、その境地に達するまで考え続けるということ、それが「化ける」という意味であったの

心より感謝し、篤く御礼を申し上げる。 前著に引き続き、本書の出版を引き受けていただいた思文閣出版と同社新刊事業部の田中峰人さんのご支援に

立入明子さんに、この本を捧げたい。 そして、初めて本を書く私に「次に出版されるときも私が担当しますよ」と、心強い言葉をかけてくださった

二〇一九年四月

工藤美和子

第Ⅱ部 賢者の王国

- 「菅原道真のめざした世界 -詩にみる仏教国家の実現」(『日本宗教文化史研究』第一八巻第一号、二〇一四年六月)
- 「慶滋保胤・その他の作品」(平成一七年(二〇〇五)三月一四日 佛教大学提出博士論文『平安期における文人貴族

と仏教』より、「勧学会結衆の仏教関係の詩文について」を加筆、成稿化した)

「仏界の荘厳 法勝寺とは何のために建てられたのか」(佛教大学総合研究所紀要別冊 『洛中周辺地域の歴史的変容

に関する総合的研究』佛教大学総合研究所、二〇一三年三月)

「平安期の願文にみる浄土信仰の変遷」(『鷹陵史学』第三五号、二〇〇九年三月)

院政期の浄土信仰 鳥羽上皇関連の願文を中心に」(『日本宗教文化史研究』第一四巻第一号、二〇一〇年五月)

第Ⅱ部 愚者の浄土

「日本中世の釈迦と舎利 -隠されているものの宗教史」(池見澄隆編 『冥顕論 日本人の精神史』法藏館、二〇一

「「愚」であること― −法然と貞慶」(法然上人八○○年遠忌記念『法然仏教とその可能性』法藏館、二○一二年)

第二章 | '愚」であること--法然と貞慶」(同前)

法然上人の語り 念仏往生の願は男女をきらはず」(『佛教文化研究』第六〇号、二〇一六年三月)

第三章 「『法然上人行状絵図』にみる蓮生の念仏往生」(『佛教論叢』第六一号、二〇一八年三月]

|日本中世の願文・表白と浄土三部経」(『佛教論叢』第五三号、二〇〇九年三月)

勢観房源智 「阿弥陀如来像造立願文」の中の法然」(『佛教文化研究』第五六号、二〇一二年三月)

「法然上人の継承者たち――嵯峨念仏房の場合」(『佛教論叢』第五七号、二〇一三年三月

索引

	あ	『一遍上人伝』	183
		『因明明要抄』	129
阿育王	90, 131, 133, 135, 145, 158	『蔭凉軒日録』	181
『阿育王経』	131		う
阿育王寺	132, 134, 135		•
『阿育王伝』	131	宇佐八幡宮	97
阿育王塔	132	宇多天皇	22~26
愛別離苦	12~14	優塡王(優塡国王	,
悪人	187	雲林院	23~25, 58
阿闍世	103		Ž.
熱田神宮	21		
『吾妻鏡』	198, 203	『栄花物語』	76, 77, 79
安倍晴明	4	永観	102
安倍宗行	14	叡尊	181, 232, 234
『阿弥陀経』		永明延寿	117
	, 110, 111, 182, 183, 221, 223	慧遠	104
阿弥陀堂	102	恵林寺	181
	造立願文 225, 226, 232	円教寺	62, 63
阿弥陀仏 12	2, 18, 101, 105, 113, 116, 117,	円宗寺	80, 93, 94
140, 145, 16	67, 170~172, 181, 184~189,	円勝寺	80
191, 197, 19	,	延勝寺	80
粟田左相府尚		円珍	177
安徳天皇	134	円仁	105, 132, 134
安和の変	28		お
『安養集』	106, 118		
	L)	往生院	216, 225
	·	『往生拾因』	102
出雲上人	111	『往生浄土決疑行	
韋提希夫人	103		01, 106, 107, 206, 213, 226
	22, 49, 50, 52, 53, 79, 88, 100	応神天皇	97
一枚起請文	228	応制奉和	7
	必密全身舎利宝篋印陀羅尼	淡海三船	10
経』	131	大江匡衡	. 50 50 50 40 44 63 63
一心三観	96, 102~107, 112		5, 50, 52, 53, 60, 64, 68, 88
一遍	181, 183	大江匡房 6,	17, 81, 102, 107, 112, 207

i

大江以言 46,	53~58 60 68	『観無量寿経硫』	103, 104, 164, 166, 187,
大胡太郎実秀が妻室のもと		189, 207~210	
近事	168	『観無量寿経疏妙	,
大胡太郎実秀へつかはす御		1 的 二 五 八 工 列 八	7/1/5/2 11/
人的人的关系,2000年,	166, 170, 187		き
大原問答	216	祇園女御	84
八原同石	210	義直	132, 177
か		『北野天神縁起総	,
カーラヴェーラ王	90	紀斉名	46, 60, 68
懐寿	58	紀長谷雄	6, 48
海住山寺	129	行基	41, 42, 49, 183
党運	58~60	行教	97
党	129	行	56. 58
覚如	186		去然上人行状絵図』
覚鑁	102	行信	87
『勘解由相公集』	47	交名	225
沙 才	111	交名帳	220
笠置寺	129, 150	『玉葉』	135, 136
花山天皇	4, 34, 62, 63	玉桂寺	225, 229
『春日権現講式』	129	銀輪	86. 89
兼明親王	27, 28, 55	332 1110	,
鎌倉の二位の禅尼へ進ずる			<
賀茂社	98	空海(弘法大師)	
賀茂忠行	4		2, 53, 87, 91, 100, 132, 136
賀茂保章	35, 46	空諦	136
勧学院	40	空也	39, 65, 66, 183, 233
勧学会 21, 30, 34, 35, 3	7~41, 45~47,	空也誄	65
50, 53~56, 60~64, 68,	69, 101, 102,	『九巻伝』→『法然	
226		供花会	38~41, 45
勧学会記	35, 36, 46	久下直光	198, 208
歓喜光院	80	九条兼実	135, 136, 196, 202, 203
『菅家後集』	4, 6, 27, 29	『口伝鈔』	186
『菅家文草』	6	九品往生	106, 109, 112
感西	196, 229	熊谷直勝譲状	210
鑑真	132, 136, 137	熊谷直実→蓮生	
『観心為清浄円明事』	149	『愚迷発心集』	127, 149, 150, 157
『観世音菩薩感応抄』	149	『黒谷源空上人伝	
観世音菩薩普門品	224, 226	『黒谷上人伝』	182
観想行	113		()
観想念仏	58, 221	n - 1:	•
『観無量寿経』 34, 58, 10	,	景愛寺	181
111, 113, 117, 118, 164,	182, 189, 206,	慶雲	36
207, 209, 221, 223, 227		慶円	36

恵果	132	近衛天皇	80
『経国集』	7	木幡	78
『華厳経』	89, 117	五部大乗会	80
下品下生	206	護法寺	181
下品上生	207	後冷泉天皇	88, 102, 227
源延	200	『欣求霊山講式』	142, 146, 156
『源空上人伝』	182	金剛界曼荼羅	80
『源空上人私日記』		金剛勝院	80
	•	『金光明最勝王経』	
造迎院	232	/ _ /	17
兼済独善	27	権者	77, 79
	., 106, 117, 207, 213, 226	『今昔物語集』	173
還相廻向	214, 236	金輪聖王(金輪聖主)	, - , , ,
源智 186, 196, 225	5, 226, 229, 235, 236, 238	89, 91~95, 98~100	0, 102, 108, 113, 117,
見宝塔品	223	227	
	2	<u>خ</u>	
	_	C	
『孝経』	14	西光寺	39
康尚	67	西寺	99
迎接曼荼羅由来記	212	最勝寺	80
興善寺	232	西大寺	181, 234
『江談抄』	60	最澄	9, 10, 105
光仁天皇	87	西琳寺	234
興福寺	52, 153	西琳寺文永注記	234, 235
『興福寺奏状』	128, 149	嵯峨天皇	7, 9, 13
孝文帝	128, 149 50	前藤総州	7, 9, 13
光明真言会	181	『三国遺事』	90
高野山	108	『三千仏名経』	20
皇龍寺	90	『参天台五台山記』	107
『後漢書』	44	『三部経大意』	213
『古今和歌集』	48	『三宝絵』	
国恩寺	181	20, 38, 46, 57~59, 6	53, 132, 133, 137, 183
極楽会	39	三昧行	56
極楽寺	43~45	三昧発得	213
『極楽浄土九品往生	生義』101, 105, 106, 226	1	
『極楽遊意』	207	L	
後三条天皇 80), 81, 88, 93, 94, 102, 227	慈雲遵式	117
『古事談』	84. 233~235	慈円	228, 229
五障五蓋	174	[史記]	56
後白河法皇	136	『四十八願釈』	106
五壇法	93	慈蔵	
五 型 法 五 智 如 来		と と と 治 発 制 誠	107 216
	108		197, 216
護念寺	181	『十訓抄』	61
五念門	106	七宝	89

四天王寺(天王寺)	111. 227	103 180	182, 207, 209, 221, 223
司馬達多	131	『浄土宗略要文』	200
島田忠臣	11	浄土門	190, 231
島田良臣	11. 12	『浄土論』	106, 111
『四明尊者行教録』	117	正如房	169, 188, 189
四明知礼	117	正如房へつかはす行	, ,
寂照	106. 117	正法	59
積善寺	50~52, 64	『正法眼蔵』	181
	41, 143, 145~148,	証菩提院	80
157~159, 225	11, 110, 110	浄飯王	90
舎利会	43	上品上生	
『舎利講式』			18, 206~208, 210, 214
129, 130, 137, 138,	142, 143, 158, 159	『勝鬘経』	91
	176, 185, 189, 190	勝鬘夫人	91
『十願発心記』 67, 101,		浄妙寺	78, 79, 133
『拾遺古徳伝絵』	182	称名念仏	224, 237
『十住毘婆沙論』	89, 91	聖武天皇	87, 91
住蓮	229	浄影寺	104
『十六相観讃』	34, 58	『続日本紀』	87
『十六仏名経』	20	白川	79, 80
粛宗	90	白河天皇(法皇)	17, 75, 76, 79~82, 84,
『授決集』	177	85, 88, 92~96, 98	3, 100~102, 112, 227
寿命経読経会	43	白河泉殿	80
遵西	229	新羅	90~92
遵式	117	信空	196, 229
淳和天皇	23, 87, 91	真興王	90, 91
定額寺	43	真骨	91
証空	196, 197, 212, 229	『真言付法纂要抄』	88
性空	62, 63	『新猿楽記』	108
貞慶 128~130, 137,	141, 148, 149, 151,	『新撰朗詠集』	60
153~159, 171, 172, 18	81	真智王	90, 91
貞公	56, 57	真徳女王	91
聖光上人伝説の詞	163, 165	信如	181
勝算	36	真平王	90~92
『尚書』	48	『心要鈔』	149
静照	207	親鸞	181~183, 187, 196
成勝寺	80	『真理鈔』	129
成尋	106, 107		す
常啼菩薩	22		•
聖道門	189, 190, 231	垂迹思想	97
聖徳太子	100	水想観	103
称徳天皇	87, 91, 132	菅原清公	6
浄土三部経		——是善	6

一一文時 4, 45, 47 一道真 3~18, 20~30, 34, 42, 43, 47, 48, 101, 178, 226 景徳天皇 80, 108, 227 世 世 世 日報				
───────────────────────────────────	輔昭	36	<i>t</i> -	
一一文時 4、4、5、47 一道真 3~18、20~30、34、42、43、47、48、101、178、226 崇徳天皇 80、108、227 世	——資忠	35	/c	
一道真 3~18, 20~30, 34, 42, 43, 47, 48, 101, 178, 226	輔正	67	『大阿羅漢難提密多羅所説法住記』 219	
## 181, 1718, 226 ## 226 ## 225 ## 24, 6, 227 ## 25	——文時	4, 45, 47	『大雲経疏』 90	
### ### ### ### ### ### #### #### ###	──道真 3~	-18, 20~30, 34, 42, 43, 47,	『台記』 111	
## 第三十五願 184, 186, 18 第十八願 17 代宗 9	48, 101, 178, 2	226	待賢門院璋子 80	
## 第三十五願 184, 186, 18 第十八願 17 代宗 9	崇徳天皇	80, 108, 227	醍醐天皇 4, 6, 28	
## 181, 200, 201			第三十五願 184, 186, 189	
# で		せ	第十八願 171	
下水野 下半野 下半	聖覚	181, 200, 201	代宗 90	
聖骨 91 状」 9 成尊 88 大日如来 9 西龍寺 136 提婆達多 10 清涼殿落雷事件 4 提婆達多品 10 清和天皇 20,88 「大般星樂経』 14 世親 106 「大般星樂経』 17,8 施無畏寺 55,56 大般若経会 2 千観 67,101,113,207,226,236 大化嚴東曼陀羅右縁文 8 養光寺 135 大學若経会 2 大世親 67,101,113,207,226,236 大般若経会 2 華光寺 135 大學若経会 2 大世親 67,101,113,207,226,236 大學若経会 2 華光寺 135 大學若経会 2 大世親 67,101,113,207,226,236 大學養歷 大學養歷 構定過離審 94,98~100 平性仲 3 平立伽院 94,98~100 平性仲 3 『選人本願念仏集』 186,196 平重廣 2 善導大田師 164~167,170,171,186~189,19 13 35,4 「経療建会 90~92 香香生 高陸有善 3 千日講 115 橋子祖如 3 36,6 福海長 6 橋海根 6 6 「維明寺 174 接然 大般若経性養金 21,2 <	棲霞寺	68	胎蔵界曼荼羅 80	
聖骨 91 状」 9 成尊 88 大日如来 9 西龍寺 136 提婆達多 10 清涼殿落雷事件 4 提婆達多品 10 清和天皇 20,88 「大般星樂経』 14 世親 106 「大般星樂経』 17,8 施無畏寺 55,56 大般若経会 2 千観 67,101,113,207,226,236 大化嚴東曼陀羅右縁文 8 養光寺 135 大學若経会 2 大世親 67,101,113,207,226,236 大般若経会 2 華光寺 135 大學若経会 2 大世親 67,101,113,207,226,236 大學若経会 2 華光寺 135 大學若経会 2 大世親 67,101,113,207,226,236 大學養歷 大學養歷 構定過離審 94,98~100 平性仲 3 平立伽院 94,98~100 平性仲 3 『選人本願念仏集』 186,196 平重廣 2 善導大田師 164~167,170,171,186~189,19 13 35,4 「経療建会 90~92 香香生 高陸有善 3 千日講 115 橋子祖如 3 36,6 福海長 6 橋海根 6 6 「維明寺 174 接然 大般若経性養金 21,2 <	『誓願舎利講式』	141, 148	『大唐故大徳贈司空大弁正広智不空三蔵行	
成尊 西龍寺				
西龍寺 清涼寺 68, 216, 225 清涼殿落雷事件 4 清和天皇 20, 88 世親 106 施無畏寺 55, 56 千観 67, 101, 113, 207, 226, 236 善光寺 33, 4 養光寺 135 養光寺 135 養光寺 426 中定仙院 94, 98~100 禅定波羅蜜 94 「選択本願念仏集』 186, 196 善導大師 164~167, 170, 171, 186~189, 191, 207, 213 善徳女王(徳曼) 90~92 千日講 115 禅明寺 181 を 「維阿含経』 174 惣持 234 即身成仏 112, 113, 117 「続本朝往生伝』 207 素性法師 49 尊意 4 「知恩講式』 18 東藤寺 80 「加恩講式』 18 東面 18 東面 18 東面 18 東面 18 長田村 18 大般若経供養会 21, 2 大般若経供養会 21, 2 東面 18 長田村 18 大般若経供養会 21, 2 東面 18 長田村 17 大般若経供養会 21, 2 大般若経供養会 21, 2 七田村 18 長田村 18 長田村 18 長田村 18 長田村 18 長田村 18 長田村 18 長田村 18 長田村 17 大般若経供養会 21, 2 七田村 18 長田村 18 長	成尊	88	大日如来 95	
清涼時 68, 216, 225 清涼殿落雷事件 4	西龍寺	136		
清涼殿落雷事件	清涼寺	68, 216, 225		
清和天皇	清涼殿落雷事件			
世親 106 施無畏寺 55, 56 千観 67, 101, 113, 207, 226, 236 善光寺 135 銭弘俶 131, 132 善秀才宅詩合 47 平敦盛 19 禅定仙院 94, 98~100 禅定波羅蜜 94 平重衡 13 『選択本願念仏集』 186, 196 善導,大師 164~167, 170, 171, 186~189, 191, 207, 213 善徳女王(徳曼) 90~92 千日講 115 橘正通 36, 66 イ イ 福善根 66 平 3 『雑阿含経』 174 惣持 234 大般若経性養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 『読本朝往生伝』 207 素性法師 49 尊意 4 尊勝寺 80 智顗(天台大師)				
施無畏寺 55, 56 千観 67, 101, 113, 207, 226, 236 大般若経会 2 善き光寺 135 大化殿東曼陀羅右縁文 8 養子之詩合 47 平敦盛 19 禅定仙院 94, 98~100 平惟仲 3 禅定波羅蜜 94 平重備 13 選択本願念仏集』 186, 196 平重備 13 夢導大師 164~167, 170, 171, 186~189, 平重盛 22 191, 207, 213 高丘相如 35, 4 善徳女王(徳曼) 90~92 高階積善 3 千日講 115 橘匠通 36, 6 禅明寺 181 橘崎平 3 養養才年願念 90~92 高階積善 3 千日講 115 橘原平 3 構御時寺 181 橘崎平 3 機構財 174 大般若経供養会 21, 2 地財成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 「統本朝往生伝』 207 大般若経供養会 21, 2 東京社法師 49 東京 18 中華寺 49 東京 18 中華寺 103, 104, 106, 117, 176, 17	世親	106		
千観 67, 101, 113, 207, 226, 236 大仏殿東曼陀羅右縁文 8 善光寺 135 太平寺 18 銭弘俶 131, 132 『大宝積経』 17 善秀才宅詩合 47 平敦盛 19 禪定仙院 94, 98~100 平惟仲 3 禪定汝羅蜜 94 平重廣 13 『選択本願念仏集』 186, 196 平重盛 22 善導大師 164~167, 170, 171, 186~189, 平師盛 22 191, 207, 213 高丘相如 35, 4 善徳女王(徳曼) 90~92 高階積善 3 千日講 115 橘原平 3 橘崎平 3 養養根 6 「雑阿含経』 174 港然 17 惣持 234 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『統本朝往生伝』 207 大般若経供養会 21, 2 素性法師 49 专 第回、大般若経供養会 21, 2 東京社院師 49 東京 18 東京 49 東京 18 東京 49 東京 18	施無畏寺	55. 56	1, 1, 1	
善光寺 銭弘俶 131, 132 太平寺 18 大宝積経』 17 平敦盛 禅定仙院 94, 98~100 平惟仲 3 平重衡 19 平重衡 『選択本願念仏集』 186, 196 平重盛 22 平重盛 夢導大師 164~167, 170, 171, 186~189, 191, 207, 213 平師盛 22 高丘相如 35, 4 善徳女王(徳曼) 90~92 高階積善 3 千日講 115 橘正通 36, 6 禅明寺 181 橘崎平 3 養權阿含経』 174 港然 17 惣持 234 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『森本朝往生伝』 207 大般若経供養会 21, 2 素性法師 49 * * * 尊意 4 * * * 專際寺 80 * * * * 第 103, 104, 106, 117, 176, 17 * *		,		
銭弘俶 131, 132 『大宝積経』 17 善秀才宅詩合 47 平敦盛 19 禅定仙院 94, 98~100 平惟仲 3 禅定波羅蜜 94 平重衡 13 『選択本願念仏集』 186, 196 平重盛 22 善導大師 164~167, 170, 171, 186~189, 191, 207, 213 平師盛 22 善徳女王(徳曼) 90~92 高階積善 3 千日講 115 橘正通 36, 6 禅明寺 181 橘崎平 3 養養根 174 港標 3 惣持 234 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『森本朝往生伝』 207 大般若経供養会 21, 2 素性法師 49 實意 4 別恩講式』 18 尊彦 4 別恩講式』 18 智勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17 17, 176, 17			7 11 10 11 10 11 11 11 11 11 11 11 11 11	
善秀才宅詩合 禅定仙院 47 94,98~100 禅定波羅蜜 平惟仲 94 3 平重衡 13 平重數 13 平重數 13 平重數 22 平重數 22 平重數 22 平重數 22 平重數 22 平重數 22 平重數 22 平前盛 22 平前盛 22 平前盛 22 平前盛 22 高后相如 35,4 3 高階積善 3 6,6 3 6,6 3 6,6 3 6,6 4 6 高湖信 3 6 6 6 6 6 6 7 3 6 7 4 7 23 24 25 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		131. 132		
禅定仙院 神定波羅蜜 94, 98~100 平惟仲 平重衡 13 『選択本願念仏集』 186, 196 平重盛 22 善導大師 164~167, 170, 171, 186~189, 191, 207, 213 平師盛 22 善徳女王(徳曼) 90~92 高匠相如 35, 4 高匠相如 36, 6 福町寺 115 橘正通 36, 6 福門寺 181 橘崎平 3 福村時寺 181 大般若根 6 「雑阿含経』 174 法然 17 惣持 234 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『森本朝往生伝』 207 ち 素性法師 49 質 「知恩講式』 18 尊彦 4 別恩講式』 18 智勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17	善秀才宅詩合	47		
禅定波羅蜜 94 平重衡 13 『選択本願念仏集』 186, 196 平重盛 22 善導大師 164~167, 170, 171, 186~189, 191, 207, 213 平師盛 22 善徳女王(徳曼) 90~92 高階積善 3 千日講 115 橘正通 36, 6 禅明寺 181 橘修平 3 『雑阿含経』 174 法然 17 惣持 234 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『統本朝往生伝』 207 专 方 素性法師 49 专 「知恩講式』 18 尊彦 4 「知恩講式』 18 智順(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17 17		94, 98~100	平惟仲 36	
『選択本願念仏集』 186, 196 善導大師 164~167, 170, 171, 186~189, 平重盛 191, 207, 213 高丘相如 善徳女王(徳曼) 90~92 千日講 115 禅明寺 181 本 橘崎平 福善根 6 橋灣根 6 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『統本朝往生伝』 207 专 素性法師 49 专 尊意 4 「知恩講式』 18 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17 17		94	平重衡 134	
191, 207, 213 高丘相如 35, 4 善徳女王(徳曼) 90~92 高階積善 3 千日講 115 橘正通 36, 6 禅明寺 181 橘倚平 3 養養園 174 港標 17 惣持 234 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『統本朝往生伝』 207 ち 素性法師 49 ち 尊意 4 別恩講式』 18 尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17	『選択本願念仏』	集』 186, 196	平重盛 228	
191, 207, 213 高丘相如 35, 4 善徳女王(徳曼) 90~92 高階積善 3 千日講 115 橘正通 36, 6 禅明寺 181 橘倚平 3 養養園 174 港標 17 惣持 234 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『統本朝往生伝』 207 ち 素性法師 49 ち 尊意 4 別恩講式』 18 尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17	善導大師 164	~167, 170, 171, 186~189,	平師盛 228	
千日講 禅明寺 115 橘正通 36,6 イ 181 橘崎平 3 橘善根 橋淑信 6 橘淑信 3 地村舎経』 174 港然 17 地持 234 大般若経供養会 21,2 即身成仏 112,113,117 檀林寺 18 『続本朝往生伝』 207 ち 素性法師 49 ち 尊意 4 『知恩講式』 18 尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17	191, 207, 213		高丘相如 35, 47	
禅明寺 181 橘崎平 3	善徳女王(徳曼)	90~92	高階積善 35	
そ 橘善根 6 「雑阿含経』 174 湛然 17 惣持 234 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『続本朝往生伝』 207 ち 素性法師 49 ち 尊意 4 『知恩講式』 18 尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17	千日講	115	橘正通 36, 60	
「雑阿含経』	禅明寺	181	橘倚平 35	
「雑阿含経』 174 満然信 3 惣持 234 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『続本朝往生伝』 207 素性法師 49 ち 尊意 4 『知恩講式』 18 尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17		Z	橘善根 62	
惣持 234 大般若経供養会 21, 2 即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『続本朝往生伝』 207 素性法師 49 ち 尊意 4 『知恩講式』 18 尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17		-(橘淑信 35	
即身成仏 112, 113, 117 檀林寺 18 『続本朝往生伝』 207 素性法師 49 尊意 4 『知恩講式』 18 尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17	『雑阿含経』	174	湛然 177	
『続本朝往生伝』 207 素性法師 49 尊意 4 尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17	惣持	234	大般若経供養会 21, 22	
素性法師 49 尊意 4 尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17			檀林寺 181	
素性活師 49 尊意 4 『知恩講式』 18 尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17		207	*	
尊勝寺 80 智顗(天台大師) 103, 104, 106, 117, 176, 17		49		
103, 104, 106, 117, 176, 17	尊意	4	『知恩講式』 182	
	尊勝寺	80	智顗(天台大師)	
智光 10			103, 104, 106, 117, 176, 177	
			智光 106	

をn 壬夫 光	140 174 176 100	法	
智積菩薩 池亭記	143, 174~176, 189 4, 27, 28, 34, 52, 57	徳曼→善徳女王	
他学記 中宮寺	4, 21, 20, 34, 32, 31		な
中信	39	中臣朝光	35
产后 澄憲	181, 201	『南無阿弥陀仏作	
重源	134~137. 181	南岳慧思	音来』 135, 136 50
	68. 84. 215	用面息心	50
周 //:	00, 04, 213		に
7)	日延	106, 132
通玄寺	181	日蓮	181, 183
常康親王	24	日想観	101, 103
津戸三郎為守	168	『日本往生極楽記	
津戸三郎へつかはす行			, 34, 41, 59, 173, 233, 234
年戸二郎 ヘンル・はり	即及事 100, 170	『日本三代実録』	87, 88, 132
7	'	『日本書紀』	131
『貞信公記』	43	『日本霊異記』	173
鉄輪	86, 89	如来寿量品	219. 220. 225
天寿国繡帳	181	仁康	66. 67
『天台観経疏』	103~107. 117	仁王講	16
『天台宗疑問二十七条		『仁王般若波羅蜜	
『天台法華宗義宗』	177		16, 17, 81~83, 94, 96
天長六本宗書	91	仁明天皇	24, 87
天王寺→四天王寺	31	口仍入主	24, 01
『伝法絵流通』	182		ね
天武天皇	87, 91	『涅槃経』	91, 224
	92, 99, 115, 140, 227	念仏房	215, 216, 220, 236
1.11.0		75.12.00	
ع			0
陶淵明	56	能救	36
『道行般若経』	22		
東慶寺	181		は
道元	181	伯夷	56
東寺	99, 136	白居易	3, 4, 7, 27, 30, 38
唐招提寺	136, 137	『白氏文集』	7, 8, 27, 30, 38
東大寺	100, 134~137	長谷寺銅版法華語	兑相図銘 86
『唐大和上東征伝』	132	八大龍王	143, 145
忉利天	68, 91	八幡神	97
銅輪	86, 89, 90	八正道	13
得長寿院	80	『般舟三昧経』	117
兜率天	101		ひ
鳥羽天皇(鳥羽上皇)	80~82, 84, 86, 93,		U.
95, 96, 102, 108, 1	110, 111, 113~118,	東三条院詮子	49, 60, 64, 67
128, 134, 227		『悲華経』	140~143, 158, 220, 224

美州源別駕 美福門院(藤原得子) 『秘密曼荼羅十住心論』 百万遍念仏 百万遍念仏会	36 80 87, 91 111 114	——師氏 ——師実 ——師輔 ——良房 ——頼長	233 79 132 52 111
豊 喩品	222	『扶桑記』	60
『表制集』	90	武則天	90
平等院	106	仏名会	20, 21, 40, 41
平等院一切経会	107	武烈王	91
頻婆娑羅	103	『文華秀麗集』	7, 13
敏満寺	136	文室如正	35
ű,			^
不空	90	『平家物語』	197
藤原明衡	34, 108	遍昭	49
——篤茂	53	変成男子	176
——敦光	53, 108	弁長	196
敦基	108		ま
——有国 2/2	35, 46~48, 53, 68		
家保	84	『法苑珠林』	131
——魚名 莱安	62	『宝篋印陀羅尼経』	131, 132, 136, 220
兼家 兼通	46, 50~52 28	法興院 法興王	52 90, 91
	28 24	法成寺	76~80, 84, 99, 100
	4	北条政子	167
——惟成	46, 62, 68	報身	105
——伊周	47. 53	法蔵菩薩	237
——順子	87		6, 199~204, 207, 225,
菅根	28	231, 232, 237~239	
忠輔	36	『法然上人絵伝』	182~184, 188
—— <u></u> 斉信	61	『法然聖人絵伝』	182
——忠平	43	『法然上人行状絵図』	(『行状絵図』) 165,
——道子	112, 113		°202, 204, 211, 212,
——時平	3, 43	214, 215, 228	
一一仲平	43	『法然上人行状絵巻』	
房前	62	『法然上人伝絵詞』	182
——雅材	62	『法然上人伝記』(『九	
一一道兼	46	[] + 45	182, 186, 201, 215
——道隆 英原	46, 50~53, 64	『法然上人秘伝』	182
道長 24 47 40 50 58 4	67 76~.70 94 100	方便品 法隆寺	223
34, 47, 49, 50, 58, 6 ——通憲	67, 76~79, 84, 100 128	法隆守 法隆寺行信発願経	87 87
——通恩 ——基経	43, 52	体	36
45/1生	40, 02	沙开	30

-Uz 21 3-t-	00 04	35. 紫红工 45.
北斗法	92~94	弥勒下生 86
北斗曼荼羅堂	92	『弥勒講式』 129
『菩薩本縁経』	231	弥勒菩薩 57, 86, 87, 90~92, 101, 128, 151
菩提心	18	む
北京三会	80	for blobs I.
法花会	43	無外如大 181
『法華玄義』	103, 176, 177	村上天皇 88
『法華玄義籤』	177	無量寿院 76
法華八講	56, 100	『無量寿経』 103, 106, 182, 184, 221, 223
『法華文句』	103	『無量寿経釈』 189
法師品	223	室生寺 136
	79~84, 86, 92, 99~101	ŧ
『法勝寺供養記』	75	
『発心講式』	149	『毛詩』 48
堀河天皇	80, 92, 102, 108, 227	文章経国 8
『本朝世紀』	67	や
『本朝続文粋』	80	4
『本朝祖師伝記絵』	詞』 182	薬王寺 41, 42
『本朝文集』	46, 47, 108, 111	Ю
『本朝文粋』		ry
5, 34, 35	5, 46, 47, 53, 60, 108, 133	唯識 153, 154
『本朝麗藻』	47, 53	『唯識論尋思抄』 129
	+	唯心浄土 102, 117, 118, 227
	\$	『維摩経』 104, 117
『摩訶止観』	56, 58, 103, 104, 117	『瑜伽師地論』 174
末世	59	I.
末法	59, 128	よ
摩耶夫人	68, 90	栄西 181
万灯会	43	慶滋保胤 4~6, 29, 30, 34~36, 38, 40~
『万葉集』	13	43, 45~47, 52, 57, 58, 60, 62, 67, 178,
1747142		226, 233
	み	,
源高明	28	6)
源隆国	107	支 隠兼得 10, 21, 29
	8, 46, 47, 56, 57, 62, 132,	六国史 25
183, 233	0, 10, 11, 00, 01, 02, 102,	李部源夕郎 36
源融	66	龍樹 89. 104
源頼朝	198, 199, 203, 229	龍女(竜女) 143, 174~176, 179, 180, 189
妙音菩薩品	224. 226	『凌雲集』 7
妙荘厳王事品	223	両界曼荼羅 80
名簿捧呈	233. 234	良源 62, 66, 101, 105, 106, 226
明遍	129	良暹 199, 200
三善清行	6	電山浄土 66
一点但11	U	亚叶44丁 00

臨終来迎	101, 106, 221		ろ	
	ħ	六念		113
蓮生(熊谷直実)	196~204, 209	六波羅蜜寺		38~40, 45, 84
蓮生置文	199		t h	
蓮生自筆誓願状	197		わ	
蓮生夢記	210	『和漢朗詠集』		60

◎著者略歴◎

工藤 美和子 (くどう・みわこ)

1972年 福岡県生。

1995年 九州女子大学文学部国文学科卒業。

1996年 佛教大学専攻科仏教学コース修了。

1998年 佛教大学専攻科仏教看護コース修了。

2000年 佛教大学大学院文学研究科仏教文化専攻修士課程修了。

2005年 佛教大学大学院文学研究科仏教文化専攻博士課程修了。博士(文学)。

現在、華頂短期大学総合文化学科教授。

賢者の王国 愚者の浄土

2019(平成31)年4月25日発行

著 者 工藤美和子

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

装 幀 小林 元

印刷 株式会社 図書 同朋舎 製本